

平成26年5月24日

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門」

まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提 案 名	温かい心が交流する地域 ―助け合いの仕組みづくり・防災まちづくり名古屋一番のモデル自主防災会― を目指して		
団 体 名	陶生町自主防災会		
提案の活動を行う地域	陶生町町内及びその周辺地域		
提 案 の 内 容	防災・減災活動を地域全体でさらに進めるためには、顔の見える信頼関係づくり、助け合いの仕組みづくりなど、地域の総合的なきめ細かなコミュニティ作りが伴わなければならない。従来型の防災対応(訓練など)からさらに前に進めるために以下の提案をする。 A. 新しい防災対応策（訓練） 1. 発災直後を想定した「黄色いリボン[夜間でも見えるもの]と笛」を用いた安否確認訓練及び安否確認班が持ち帰った被災情報にどのように対応するのか、5つの班の参加者全員によってクロスロードゲーム 2. 情報班を中心に災害対策本部でアマチュア無線基地局開設訓練 3. 夜間の災害に備えての防災対応策を準備、夜間訓練の模索 4. 地域に防火水槽(大型ゴミバケツ使用など)を順次増設 B. 助け合いの仕組みづくりと災害時対応策について 1. 地域防災支え合いマップ作りを通して、災害時要援護者への見守りや支援の課題を探って、個々の個別支援計画の策定 2. 独居の災害時要援護者等への家具転倒防止策などの援助 3. 災害時要援護者への対応策（避難支援等）の準備と訓練 4. 災害発生時に備えて救出救護のための資器材の準備 5. 実際の災害に対応できるように防災対策名簿管理運用規定の改定を行い、新しい防災対策名簿を作成配布		
活動期間	平成26年4月～平成27年3月	助成金交付申請額	35万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か ・工事を伴う活動の場合、公益性、公共性のあるものか
(提案活動の必要性について上記観点から分かりやすく記入下さい。) ※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。 1. 昨春立ち上げた自主防災会で安否確認から炊出しまでの各種訓練を地域独自の災害に即した個々の訓練をすることができた。今年度は、その集大成として行い、訓練の流れから実際の災害への具体的な対応策を探り、参加者全員で課題を共有する。 2. 緊急時一時避難所の自主防災会本部とより広い地域との情報の連絡は必要である。 3. 夜間でも安否確認が容易にできる「黄色いリボン」等の新しい手法を取り入れる。 4. 初期消火用に風呂桶の置き水を推奨しているが、少しでも更に防火用水を増やす。 5. 会長しか閲覧できない防災対策名簿の管理運用規約を、幹事や班長副班長までも閲覧できるように改定しなければ、実際の災害発生時に活用できない。 6. 助け合いの仕組み作りの要援護者への個々の個別支援は進んでいない。地域支え合いマップ作りを通して、より多くの人々が災害時要援護者の存在を日常的に認識し、具体的な個別支援の課題や方法を考える。支援者同士も互いに協力関係を作る場とする。	
審査基準② 独創性	・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすく記入下さい。) 1. 消火、救出救護など素早く対処するために、震度5強以上の地震で家族全員が無事を表す「幸せの黄色いリボン」と「笛」による安否確認を行う。「リボン」は夜間でも見える素材を考える。その後、安否確認班のもたらした情報によって、参加者全員、各班クロスロードゲームを行い、今後の防災減災対応策を探り、課題を共有する。 2. 電話や携帯の不通に備えて、発電機も使用したアマチュア無線基地局開設訓練。毎月2回無線交信している地域の4～5人と情報班を中心に行う。 3. 夜間の災害に備えて、本部の運営等が出来るように、発電機によって照明や無線機、情報収集のワンセグテレビ、その他の機器の電源を得られるようにする。 4. 歩行困難な高齢者や障害者などの要援護者も少なくない。一日も早く個々の個別支援の方法を考え、災害発生に備えて救出救護のための車椅子などの資器材を準備する 5. 家庭で雨水利用のための大型ゴミバケツ等を地域でも防火用水槽として増設置する。 6. 現在96%の提出率の防災対策名簿であるが、会長以外の多くの人によって名簿を閲覧できるように管理運用規定を改定し、災害時に即座に活用できるようにする。	
審査基準③ 実現性	・提案内容が具体的になっているか ・自己資金を含め、活動内容や資金計画などは妥当か
時期	活動内容
平成26年4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 平成27年1月 2月	役員総会、事業計画の決定 勉強会（防災減災アンケート結果の分析から課題の掘り起こし） 防災対策名簿管理運用規約の見直し 夏の防火防犯パトロール、防災地域支え合いマップ作り アマチュア無線基地局開設訓練、夜間の災害に備えて発電機使用訓練 臨時役員総会、新しい防災対策名簿の配布及び回収 総合防災訓練、要援護者宅への家具転倒防止策の手伝い 防災備蓄・非常持ち出し等の防災減災勉強会 冬の防火防犯パトロール 防災地域支え合いマップ作り、 炊出し訓練

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

工 事 費 目 別	活動項目	内 訳		金額(円)
	別紙参照	別紙参照	別紙参照	別紙参照
計		都市センター助成金 350,000 円		480,580
		自己資金(注) 130,580 円		
		「提案したまちづくり活動に係る経費」のうち工事にかかる経費		円

(注) 自己資金には、他の助成金等を含めることはできません。

審査基準④

発展性

- ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
- ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか

(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

1. 点の防災から面の防災力へ。

本防災会の器具を用いての炊出し訓練が昨年、本防災会から学んだ「黄色いリボン」の防災訓練が今年に、それぞれ他の地域で始められた。隣の地域も昨年から一緒に防災訓練やコミュニティ作りに取り組んでいる。

防災は小さい単位の地域が主体となるほど地域住民の参加人数は多くなり、防災意識がより高められる。そして意識が高まった地域が増えることが広い面としての防災力になると考える。

2. 新しい防災や助け合いの仕組みづくりの対応策は、さらに新しい理解者、参加者が必要であり、広報活動や魅力的な地域コミュニティ活動が今後の大きな課題である。

3. 子どもや孫が大きくなって振り返った時、愛着を持って誇りに思うような地域づくりが、災害などから「自分たちの街は自分たちで守る」ことに繋がると考える。

審査基準⑤

活動実績と主体性

- ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか
(団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。)
- ・具体的にどんな熱意を注いでいるか
- ・工事を伴う活動の場合、自ら主体となって工事を行い、継続的に維持管理する能力があるか

※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。

※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。
この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。

団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。

1. 昨春、手挙げ方式でおおよそ40人で情報班、消火班、救出救護班、避難誘導班、給食給水班を組織して立ち上げた。6月の初期消火訓練は断水を想定しての2軒の風呂桶のため水や街角に置いた防火水槽からバケツリレーで58人が参加。7月のカラビナを用いたロープワークでの重量物も除去できる救出救護訓練に42人。8月のエレベーターが止まった想定でのマンション防災勉強会・訓練に34人。11月の全戸配布の「幸せの黄色いリボン」「呼び笛」を用いた安否確認訓練は全世帯対象で担当者は34人が30分間で完了。災害時は安否確認を早く行い、火災への対応や家屋倒壊などの負傷者の救出救護を一刻も早く対応しなければならない。そして3月は、ライフラインが止まったことを想定した竈に薪の炊出し訓練。参加者が冷蔵庫内の食品を持ち寄っての訓練で、給食給水班8人に20人余りの手伝いが加わり、80人の参加であった。

防災活動、助け合いの仕組みづくりに欠かすことができないコミュニティ活動を様々取り組んでいる。例えば、焼き芋大会、親子工作教室、新春防災風揚げ大会、街かどオープンカフェなどを。

2. 6年前、初めて取り組んだ名古屋市防災センター見学会はわずか6人であったが、何事も継続こそが力なり。今では全ての防災訓練に地域全体で取り組むことができるようになった。取組みへの参加呼び掛けや報告などを昨年度は22回の回覧板で行なった。

3. 平成22年に始めた助け合いの仕組みづくり、防災対策名簿は、地域での様々な顔の見える関係づくり、コミュニティ作りが相乗効果となっており、96%の提出率である。

※第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格A4とします。

平成26年 名古屋都市センターまちづくり活動「地域魅力アップ部門」提案書
助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書

陶生町自主防災会

活動項目	品名	数	金額(円)	活動項目	品名	数	金額(円)
本部設営	LED投光器(20W)	3	18,000	消火	防火水槽用ゴミバケツ@5,000円	4	20,000
	テント	1	7,000		三角バケツ@3,500円	10	35,000
	折置長机 @6500円	2	13,000		台車(空気タイヤ)@9,500円	2	19,000
	パイプ椅子 @2000円	4	8,000	小 計		16	74,000
	PCチェア@1000円	15	15,000	避難誘導	車いす @9800円	2	19,600
	プロジェクター用スクリーン	1	9,900		誘導灯 @2000円	5	10,000
	ホワイトボード	1	9,900		小 計	7	29,600
	ブルーシート(大)@3000	3	9,000	情報	アンテナ	1	9,000
	簡易トイレ@3,500円	2	7,000		基台	1	4,000
	トイレ用テント@9,000円	2	18,000		ケーブル	1	2,000
本部広報等 運営	スコッチコーン@530	9	4,770		コネクター	1	2,000
	コーンベッド@370	9	3,330		DC電源	1	7,000
	コーンバー@350	6	2,100		支柱	1	3,000
	蛍光ベルト@880	80	70,400		変換アダプタ	1	700
	小 計	138	195,400	小 計		7	27,700
	コピー紙(A4)@1200	5	6,000	給食給水	ステンレス丸かまど	1	4,000
	インクカートリッジ@4300	7	30,100		斧	1	8,000
救出救護	ラミネートフィルム150μ(A3)	1	3,800		ザル@900	2	1,800
	会議費会場費	10	6,000		洗い桶@1700円	2	3,400
	講師謝礼	2	6,000		まな板@1300円	2	2,600
	小 計	25	51,900		包丁@1500円	2	3,000
	ワイヤーカッター(中)	1	4,000	小 計		10	22,800
	ワイヤーカッター(小)	1	3,000	家具転倒防止	電動ドライバドリル	2	18,000
	チェーンソー	1	9,500		各種し字金物	5	2,000
救出救護	携帯型担架@6000円	2	12,000	家具転倒防止 器具モデル展示	各種パッド・マット	6	4,480
	おんぶベルト	1	9,500		各種転倒防止ベルト	2	1,600
	バール(120cm)	1	7,000		大型家具用パッド	1	5,500
	ガンリン携行缶(20ℓ)	1	2,600	小 計		16	31,580
小 計		8	47,600				

活動ごとの費用一覧	金額(円)
班など	
本部設営 ※1	195,400
本部広報運営	51,900
救出救護	47,600
消火	74,000
避難誘導	29,600
情報	27,700
給食給水	22,800
家具転倒防止※2	31,580
合 計	480,580

※1 本部活動費に安否確認用蛍光ベルト代を含む。
※2 家具転倒防止モデル展示含む。